

れる。下草及び灌木には キツリフネ、フタリシズカ、ウマノミツバ、ヒヨクソウ、トウザシバ、キキョウ、ボタンズル、ノビル、ホウチヤクソウ、イヌショウマ、オハカニコウモリ、ツリガネニンジン、ママハタザホ、ムガゴイラクサ、ミズタマソウ、ウバエリ、タムラソウ、ホドイモ、イチゴツナギ、サルナシ、キクバドコロ、ノササギ、サイコクミツバツヘツ、ウラジロレンゲツツジ

等がある。かくて頂上に達したのは〇時20分頃なので見はらしの良い所で昼食をとる。いつもの事ながら山頂からながめる景色は美しい。すぐ目の前には城山がそびえ、越知山、鬼岳等の丹生山塊の山々が現在する中に部落が散在し、南の方には日本海の青海原がつゞく。山頂附近は黒松が植林されており、この点が最も美しい。帰途は別の道を通り山の北側に出る。

こゝでは、オハウラジロノキ、マップサ、コバノトネリコ、ハネミイヌエンジエ、サワフタギ、ウラジロノキ、ノギラン、シライトイソウ、タンコウバイ、ミメマハハソ、クマシテ、クマイチゴ、トボシガテ、トモエソウ、テンニンソウ、メマタツナミソウ、イヌゴマ、アズラチメン、カラクサイヌワラビ、ミメマベニシタ、サトメシタ、サワグルミ、オハシロバナニガナ 等が見られた。

かくて熊谷を経、鶴来線江波駅より帰途についた。思うに若須岳は樹木が茂密され、山麓附近は杉、頂上附近は黒松が植林されて居り自然林が見られない。しかし、この様な相貌にむかへわらず、北系植物の間に南系植物の侵入している姿が見られ興味ある山である。

大竜山植物採集記

七月四日（日曜日）大竜山（坂井郡竹田村）の植物採集登山が計画され、堀芳寿先生、寒蝉義一先生の御指導のもとに博物同好会々員10数名、坂井郡理科研究会々員約20名のものが参加して盛大に行なわれた。

大竜山は標高1044mの坂井郡第一位で坂井郡の東部に位置し、南には浮城寺山が尾根続きに連り、北には竹田川の溪流を隔て火燈山、富士厚岳と県境の1000m台の山々が連っている。当日は南寄りの微風が吹き時々うす日が射すという曇天で夏山登山としては最好の天候であった。午前6時20分福井駅に集合し、汽車、電車と乗り換えて午前8時に丸岡町に到着、直ちに自動車にて竹田川の溪流を越り、午前9時には竹田村山口の竹田小学校に到着、こゝで坂井郡の理科研究会々員ヒ合流して直ちに大竜山に向って採集会が行われた。

山口を出て約2kmは竹田川の流れに沿って進る。始めは田畠の面を進むが、やがて左手に山麓がせまり、右側には竹田川の溪流が音をたてて流れ出す。この辺までの植物は採集順に

ゲジゲジシダ、シケシダ、イヌウラビ、コナスビ、ユキノシタ、トウバナ、ヘビノネゴサ、アカソ、カキドウシ、カラムシ、ウシハコベ、ジエウモンジシダ、ダンドボロギ久、アシボリ、ノブドウ、ベニシダ、オカトラノオ、ウツギ、クロベナヒキオコシ、ボタンズル、ツリフネソウ、マブソテツ、ミメマイボタ、オタカラコウ、クガイソウ、クサギ、ヒヨドリバナ、ハシカクサ、ヨメナ、タチイヌノフクリ、ヌカボ、カモジクサ、アオクモジクサ、トボシガラ、ノミノフスマ、ツメクサ、アミガサソウ、ゲンノショウコ、オランダ、ナクサ、スズメノメリチガ、ゼンマイ、ミメコクサ、ミソツバ、イノコズ天、ドクタ、アケビ、ノチドメ、イ、ミソハギ、シラネセンキュウ、キンミズヒキ、コメガ、ミメマアブラスヽキ、ハナイバナ、ミズタビラコ、スドサイコ、ヒメジョン、ヌスピトハギ、アキチヨウジ、チマクセンシタ、サヽかヽ、リュウノウギク等の草本や

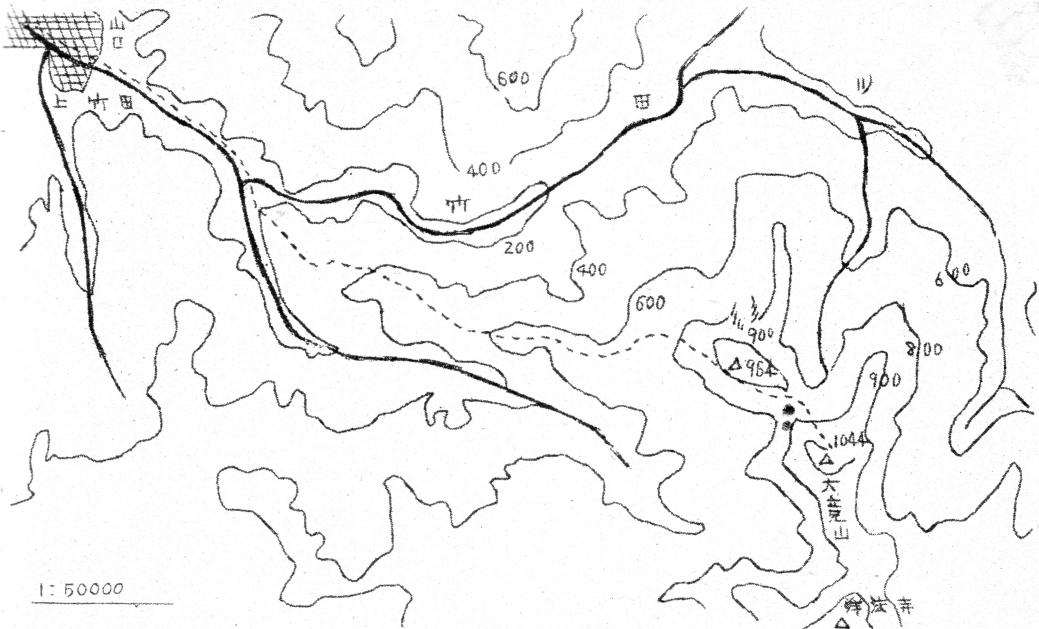
ハンノキ、ウルシ、ヌルデ、アカメガシワ、クリ、クヌギ、エノキ、ミズキ、ムラサキシキブ、等の木本等普通な野乃至は丘陵地の要素が見られる。

次第に高くなるにつれて

イヌガンソウ、クサアジサイ、メノネクサ、ツルニガクサ、サルナシ、マクルマソウ、ミヤマキズ、ママアイ、ミヤマイラクサ、アキノハ、コクサ、カワミドリ、ママガシウ、マルバマンネンクサ、エビガライチゴ、ホタルアクロ、コマユミ、アワブキ、イタメカエデ、イタビカズラ、ツタウルシ、フユズタ、ウラジロガシ、シロタモ、ウツバウツギ、ツノハシバミ、等が現われる。フユズタ、シロタモ、ウラジロガシ、イタビガズラ等の暖地性要素がこの辺に見られることは面白い。

山口から2km程のところで竹田川が大きな支流を南につくっている。大竜山の尾根がここまで伸び両流の間に急斜面をつくつていて、こゝで川を横切り急斜面を尾根づたいに登ることにした。頂上までは8kmであるが採集しながら登つたら約4時間かかった。始め急勾配の杉林を300m程登ると視界が急に開けて尾根に出る。この辺から先は

キンキマメザクラ、ヒサカキ、ママモミジ、ウスギヨウラク、マルバマンサクホツ、ツ、ナシキンナ、カマド、ウリカエデ、サイゴクミツバツヽジ、ミメマ



クマズミ、ダンコウベイ、コハウチワカエテ、ホナガクマメナギ、ソヨゴ、イヌツバ、コシアブテ、タムシバ、エゾエズリハ、ザイフリボク、リヨウブ、ハウチワカエテ、ウラジロノキ、等の間にツクバネ、メブコウジ、シシガシラ、フモトシタ、オ、カナワラビ、ミゾシタ、シュロソウ、コアジサイ、イカリソウ、カソアフヒ、トウケシバ、タガネソウ、ママボクチ、ノギラン、クルマバハグマ、イワナシ、シハイスキレ、等が見られた。標高600m附近に谷を標切る所があり40~50年のスギの巨木が谷をこの辺迄登って立派な林を作っている。こゝで昼食をとり、標本の整理をした。この辺には、フタリシズカ、トリアシショウマ、ムラサキマエ、ハイシキ、アオイスミレ、ノギラン、イチメクソウ、シラセマギク、オバノトンボソウ、サウフタギ等が見られた。約30分間休憩して出発。こゝから南斜面の山腹をしばらく登るのであるが、ハイドクソウ、オバギボウシ、クマイチゴ、ツルリンドウ、センボンメリ、ママソテツ、ツルアリドウシ、センブリ、等がスギやアカマツの間に見られ、ミズナラ、オコメツ、ジブモウカ、ママボウシ、ナツ、バキの白い花が見られた。700mから800mのあたりは尾根繞きで楓原が開け、右手には大鹿山や淨法寺山の頂上が、左には火燈山、富士写岳の山々がそびえて見える、このあたりからブナが現われじくソウやアカモノ、トリカブト等も見られた。

900m辺り御前峰(964m)へ登る道と大鹿山頂へ通じる道とが別れている。大鹿山への道は御前峰の南側を通って両山の鞍部へ出る。この御前峰の下は急斜面でけわしく登山には至難な所にあり、こゝに氷がボタボタ滴る瀧がある。此所でカライトソウのかなり大きい群落を見た。花期は過ぎていたが、5月頃ならば赤い美しい花に見入る事であろう。カライトソウは本県には三峰や三国岳に見られるが、このような低地まで降下しているのは珍らしい。この瀧地ではこの外にキンコウカ、サワラン、コトンボソウ、モウセンゴケ、タヌキランが見られた。

この山には東にオタカラコウ、オウバショリマ、タマガワホトトギス、ヒトツバヨモギ、ウラジロヨウラク、ミメマシクレ、ミメマニガイチゴ、クサアシザイ、コマアシサイ、ウワバミソウも見られた。鞍部から頂にかけては急斜面を手と足をつかつて登らねばならない。時雨も大分過ぎたので大急ぎで登る。頂上は標高の淮木林が視界が良く南は遠く白山の姿も見られる。頂上にある植物は次の如くである。オコメツツジ、ホツツジ、マルバマンサク、ナナカマド、アカモチ、イワナシ、コナラ、シシガシラ、リウツギ、ムシカリ、クロソヨゴ、サイゴクミツバツツジ、ママウルシ、ヒカゲノカズラ、ハナヒリノキ、シメクナゲ、ママツツツ、タムシバ、クロモジ、ミメマシクレ、ウラジロヨウラク、チゴエリ、コバノトネリコ、ハイシキミ、コハウチワカエデ、タガネソウ、エゾユズリハ、ムシカリ、ノアザミ、ススキ、シバ、スノキ、コマユミ、リョウブ、コナスビ、チゴザサ、ミズナラ、アオハ。

頂上についたのは午後3時半、隙るい内に山をおりなければならぬので、手当り次第に採集して走る様にして下山。麓の山口部落に着いた時はすっかり日が暮れて居た。

大野郡石徹白方面植物採集記

夏期植物採集会を昭和29年7月26日から28日迄、大野郡石徹白方面を行つたので其の概況を報告する。

〔参加者〕 塚会長以下12名

〔日 程〕 26日午前7時53分福井発（電車） 9時35分大野発（バス）

13時石徹白着。小憩後直に検岐方面採集。 27日 芦倉山方面採集。

28日、石徹白—小谷堂間採集。帰途。

〔検岐方面〕 郊落から峠への道は先ず山間の段々畑の間を通る。このあたりは、コウカノゼキシヨウ、ヒロハコウノイゼキシヨウ、アイバショウ、シロツメクサ、アカツメクサ、ホンドホタルアクロ、ネジバナコオニユリ、キンミズヒキ、オダマキ、クサイ、ナツズタ、ユウガギク、ネコハギ、ツタウルシ、イソノキ、タケニグサ、バライトゴ、エゾシオガマ、ハルガメ、オカトランオ、ウド、オ、ミゾホ、ズキ、ツリバナ、アケボノソウ等が見られる。このうちハルガメは明治初年に輸入した歴史の逸出したものといわれるが、県下ではこの方面のみ分布するものと想われる。やがて両側の畑がつき、道は森林中に入る。この山の樹木は、イタヌカエデ、ウリハダカエデ、ヤマウコギ、ハリギリ、オバルハンノキ、ヤマハンノキ、マンサク、キブシ、カマズミ、ミメマガマズ、サワフタギ、シ